

## Ⅱ. 2022（令和4）年度事業報告

### 1 相談件数

#### 1 相談内容

育児、家族関係、家庭教育などに関する相談	9
生活指導、学業不振、不登校、校内暴力などに関する相談	40
就学、就労などに関する相談	14
余暇（自由時間）活動に関する相談	21
公的制度の利用に関する相談	0
専門職活動に関する相談	72
障害（※）に関する相談	62
その他	3
合計	221

（※）視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱、言語障害、自閉症スペクトラム障害、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、重複障害、精神障害など

#### 2 年齢別

0歳以上6歳未満	51
6歳以上12歳未満	52
12歳以上15歳未満	27
15歳以上18歳未満	11
18歳以上	80
合計	221

#### 3 相談の方法

電話	メール・文書	学内面接	学外活動	その他	合計（内 継続（※））
36	33	19	120	13	221（154）

（※）継続相談契約に基づく定期的な相談

## 2 相談員別の年間活動

岩 井 浩 英

令和4年度の活動も、学部長職に再任されたこともあり、例年通り、1) 県内の学校ソーシャルワーク推進に関する活動、2) 本学学生からの学生生活等に関する相談対応、3) その他の相談活動に限って取り組んだ。

新型コロナウイルス感染の未だ終息せぬ状況ではあったが、県教育委員会主催の連絡協議会・研修会については、全て対面方式で開催された（特に、第2回連絡協議会は対面とオンラインのハイブリッド実施とされた）。

任意団体「かごしま学校ソーシャルワークを進める会」（以下、「進める会」という）につき、令和4年度中の計3回の企画は、コロナ状況だけでなく遠隔参加の利便性を鑑み、全てオンライン会議の形で開催した。また、進める会代表として、県教委主催の「いじめ問題対策連絡協議会」および「鹿児島県教育機会の確保に関する意見交換会」への出席要請を受けた（ただし、前者は事務局員による代理出席）。

本学学生からの相談対応としては、指導担当するゼミ生に対し事務局やCSWrとの連携のもと対応を図った。また、学部受講生や大学院生からの相談も受けることがあり対応した。さらに、大学入学以前まで支援等を行っていた某市の現任SSWrから本学学生の修学に関する相談があり、CSWrおよび学生課との連絡調整等を行った。

さらに、その他の活動として、令和4年度も、いくつかの関連する自治体設置委員会の委員（長）等を継続した（会議等は、全て対面実施）。

古 賀 政 文

本年度は、1) 特別支援学校等の児童生徒及び保護者、教師等の相談等への対応、2) 障害のある子どもの具体的な指導・支援の推進、3) 地域との連携を通じた地域福祉事業の取組、4) 高等学校における特別支援教育の推進等を中心に行った。

- 1) については、特別支援学校に在籍する児童生徒及びその保護者、教師への相談として、児童生徒の実態把握や状態等に応じた指導についての相談に対応した。新型コロナウイルス感染予防対策関係に関連する児童生徒等の行動についての電話やメールでの相談が多くを占めた。新型コロナウイルスで活動場所が限られ、家庭等での活動内容についての相談があった。
- 2) については、実際の保育所等を訪問し、障害のある子どもの状態等を参観し、具体的な環境整備や支援方法について、担任等と協議したり、保護者との相談活動を行ったりした。保護者からは睡眠リズムやコミュニケーション・言葉、情緒面の課題等の相談があり、対応した。
- 3) については、錦江台まちづくり協議会社会福祉部会の委員の委嘱を受け、在宅独居高齢者、認知症高齢者等の見守り活動等の企画・実施に協力した。また、児童相談センターとの共催で、

永富大舗相談員に依頼し、「発達障害のある子どもの理解と支援」と題した講演会を実施した。

- 4) については、国際バカロレア中等教育プログラム（MYP）候補校から依頼を受け、インクルーシブな教育の在り方についての実践的な研究を共同で行った。

## 永 富 大 舗

### 1) 鹿児島国際大学5号館プレイルームにおける個別支援

- ・2022年4月から、特別な支援を必要とする小学校1年生1名、小学校3年生1名に対して、週に1回、1時間の個別支援が実施された。それぞれ、学生が3名、1名ずつ加わり、永富が関わり方、教材の作成について指導した。
- ・鹿児島幼稚園年中児1名は鹿児島幼稚園で永富が週に1回、1時間の個別支援が実施された。2023年1月からは鹿児島国際大学5号館プレイルームで実施された。

### 2) 地域の特別支援学校におけるコンサルテーション

- ・2022年5月から、武岡台養護学校で3名（小学部3年生1名、中学部2年生2名）、桜丘養護学校で2名（小学部1年生、小学部3年生）の担任教員に対して、関わり方についてのコンサルテーションを実施した。それぞれ、1回の学校での様子の直接観察、1回の学校での担任教員との面談を実施し、以降はZoomもしくはメールで連絡の調整を行った。

### 3) 地域での講演会

- ・2022年10月6日、「発達障害のある子どもの理解と支援」をテーマに錦江台まちづくり協議会福祉部会講演会を行った。

## 中 村 ますみ

本年度の計画に基づいて、以下の活動を行った。

- 1) 発達支援事業所2か所において音楽療法を行い、共にセッションを行う音楽療法士に具体的な助言を行った。感染症の状況を見極めながら、オンラインの活用も行き、毎回のセッションの前にはプログラムの作成にもかかわった。特にねらいを具現化する音楽活動の在り方を検討した。事後の振り返りも事業所スタッフの全員で行う場が定着し、音楽行動とした現れた子どもの姿について共有できた。
- 2) 学内において「親子ふれあい音楽あそび」を開催した。恒例の事業として定着し、第6回目となったが、連携事業所の協力による学外の親子8組、学内関係者親子2組の参加があった。学生の役割も昨年度より増やし、学びも深まったようだ。
- 3) 主宰する音楽療法研究会の設立20周年記念事業等を行った。感染状況についての予測ができず、企画・準備が困難を極めたが、人数を関係者だけに限定し、県外から招へいた講師による特別講演会も予定通り行うことができた。鹿児島県内での音楽療法の歩みについて振り返る

機会となった。

- 4) 障害のある青年に対するピアノレッスンを継続している。本人がやりがいを感じる演奏活動について模索しつつ、コロナ禍の収束後の計画を本人・保護者と相談している。
- 5) 県内養護学校において、「重度重複障害児との関わりに活かしたい音・音楽の可能性」と題した講演を行った。
- 6) 本学科の学生・保護者の相談に応じた。

松 元 泰 英

昨年度に引き続き、本年度もコロナ禍のため、当初予定していた活動内容を変更せざるを得なかった。

結果的には以下の内容を実施している。

- 1) 特別支援学校（肢体不自由・病弱）やPTA、ロータリークラブの要請による講演
  - ・特別支援学校では肢体不自由教育の支援の在り方や摂食・嚥下指導等の講演を行った。
  - また、PTAやロータリークラブからの要請により、市民対象の特別支援関係の講演を行っている。
- 2) 県の教育センターや鹿児島市教育委員会主催のパワーアップ研修会の講師
  - ・県の教育センター主催の「訪問教育」の研修会やパワーアップ研修会の講師、また市教育委員会主催のパワーアップ研修会での講師を務めた。
- 3) 特別支援学校における肢体不自由児を中心とした支援の在り方についての指導・助言
  - ・県内の特別支援学校へ出向き、重度重複障害児の実態把握と指導の在り方について、指導・助言を行った。
- 4) 療育施設での言葉の指導
  - ・療育施設の未就学児に言葉の指導を行った。